

---

# ひろし・Road下巻

タケル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひろし・Road下巻

### 【Nコード】

N7925A

### 【作者名】

タケル

### 【あらすじ】

その出会いは間違いだった。修正の出来ない運命とも言えよう。悪魔に魅入られてしまった女性に更なる悲劇が…。

## エピソード4 キッカケはキスだった（前書き）

この作品はフィクションであり、登場人物、その他背景は架空の物語である。

## エピソード4 キツカケはキスだった

カンパニー！

何はともあれ飲んじゃえ。ちょうど良く冷えたビールが二日酔いの頭を冴えさせる。

自己紹介もそこに大好きなビールがすすんでいく。

話題といえば仕事のことばかり。少し疎外感を感じてしまうが仕方が無い。

（まあ、もともとリコが職場に馴染めるようにセッティングしたんだから…。）

二人の話に耳を傾けながら飲む手は止めない。どんどん杯数を重ねていく。

「酒強いなー、全然顔に出んなー。」

「ウン、でもリコのほうがお酒は強いよ。酔っても変わらないし。」

共通の趣味がパチンコ、スロットだということもあり少しずつ溶け込む。

「どこで打ってるの？」

「仕事先の近くかな。仕事に行けるし。あ、これ内緒な。」

2人の勝負師に火がついた。

「今度一緒に行ってみようや！この辺の店はまだよう知らんし。」

「いいですねー、いろいろ店を巡りますか。」

他愛も無い話題が続く。そのうち奴は後輩に電話をし始めた。

「よし、2次会に行こう！」

仕事が終わって合流した後輩の車でスナックへと場を移す。

「ワシは不倫は反対じゃ。」

もっともらしいことを言っている。

「じゃ何？この手は。」

なれなれしく触ってくるその手を振りほどきながら笑ってみせた。

「ワシはええんよー、お前もワシと付きあつとれば。」

ご都合主義もここまでくれば開いた口がふさがらない。いったい何様のつもりだ。

この手の男には、ちょっと痛い目を見せるか！にやりと笑った次の瞬間奴の手をねじる。

エイコの特技はマッサージである。ツボ押しも使い様によってはちよつとした武器だ。

「痛てー！も、もうちよつと手加減してー。」

誰が遠慮などするものか。

「そんなに力を入れてないけど、ここが痛いのは肝臓でも悪いんじゃない？」

ザマー見るだ。続けざまにピンポイント攻撃。

「じゃあ、ここも痛いはずだよ。揉みほぐしておかなきゃね！」

手、腕、肩。変な気を起こす余裕を与えるまもなくアタックする。

（翌日にはアザになってるだろうな。あースッキリした。）

オヤジ撃退法のひとつである。先手必勝、触られる前に潰しておく……はずであった。

少し間を取りながら奴は話題を変えてくる。

（敵もなかなかやるなあ。ワクワクしてきた。）

気づけばとつくに日付が変わってる。リコは次の日仕事のためお開きとなった。

「お疲れ〜！先に帰るけど身分は保証するから大丈夫だよ。」

言い残したセリフが気にかかる。

「帰らなくていいの？明日仕事でしょ？私はタクシーで帰るから。」

「少々飲んでても送るから大丈夫。」

「じゃあ、お酒が抜けるまでネットカフェで仮眠しますか？」

眠いが飲酒運転の車には乗れない。近くのネットカフェに入り、その場をしのぐ。

（個室だから大丈夫、後は漫画でも読んでいよう。）

安易な気持ちで考えていたが奴は違った。

「メルアド教えて！」

隣の個室からメモの書かれた名刺が差し出される。

（まあ、良いか。リコも身分は保証する！なんて言ってたし。）

メルアドを書いて渡した。その後数分間何事も無かったかのように静かである。

しばらくして、トイレにでも立ったのか隣から奴が出てきた。

と同時にエイコの顔を覗きこむ奴の顔が…。

キスされたのだ。

「× × × ……」言葉にならない。頭の中がパニックになった。

（チツ、油断したー、私ともあろうものが…。）

負けず嫌いで、人の思い通りになるのは大嫌いである。が、あっさりキスされたのだ。

「おこった？」

席に戻るなりすかさずメールでフォローする。

（腹は立つけど負けを認めるようでシャクに障る。引くもんか！）

「怒っては無いけどもうやめてください。」

平静を装いつつ口調を厳しく、言い放った。

いたずらっ子が叱られた時のように「へへッ」と笑いながらすぐに寝入ったようだ。

いったい何を考えているのか行動が予見できない。

（とんでもない奴と関りあったな…気が抜けない、誰か助けてよ！）  
もうひとつ隣の個室で寝てしまった奴の後輩は目を覚ます心配すらない。

長い夜がふけていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7925a/>

---

ひろし・Road下巻

2010年10月14日15時22分発行